



# 志木中だより



1月号 平成30年1月9日

志木市立志木中学校

志木市柏町 3-2-2

TEL 048-471-0143

## 新たな発想で、新たな局面をひらく年に

校長 飯田 寛

平成30年が幕をあけました。みなさん、明けましておめでとうございます。そして、平成29年度の締めくくりである3学期がスタートしました。当分は寒い日が続きますが、心にはりを持ち、志木中生らしく、「凜として」日々過ごしてほしいと思います。また、3年生はいよいよ受験本番です。体調をよりよく保ちながら、力強く入試に臨んでくれることを期待しています。ご家庭におきましても、平らかな気持ちで、温かく応援していただきたくお願い申し上げます。



新学習指導要領が告示され、中学校では教科書検定を経て、平成33年度(2021)から全面実施されます。日本の教育は、その時の社会情勢に鑑みつつ、絶えず「不易」と「流行」との間を揺れ動きながら、すすんできました。そして、今回の改訂では、学校教育と社会との結びつきをより強固なものにし、学校で学んだことが社会でよりよく活かされ、各自の自己実現への大きな力を育成することに主眼が置かれています。「社会に開かれた教育課程」とはそのような趣旨をはらんでいます。

「生きる力」という言葉がキーワードとして学習指導要領に登場したのは、もう今から20年以上も前、第15期中央教育審議会答申を受けてのことです。しかし、考えてみると、我々の先祖・先輩も幾多の困難の中、それを辛抱し、乗り越え、様々な局面を切り拓いてきたのです。まさしく、「生きる力」の賜物です。それに比べたら現代人の何とひ弱で脆いことでしょうか。何かあるたびに「心のケア」という言葉が飛び交います。心をケアすることは確かに大事なことです。しかし、最終的に人は自分自身でそれを乗り越える力を持たなくては駄目なのです。全て人任せで「自助」の精神に欠けているのが現代人の特徴です。そして、何かあると人のせい、行政のせいにしたがる輩が多いのです。

新たな教育の課題は、この「自助」精神をいかに涵養するかです。自分の頭で考え、自分の足で立つことができ初めて学校で学んだことが社会で生かせるのです。子供を真綿でくるむような扱いはそろそろやめにしないと、この国の力がどんどん弱まるような気がしてなりません。新年にあたり、きりっとした気持ちで新たな局面に臨む気構えを持ちたいと思います。



# 志木中だより



2月号 平成30年2月1日

志木市立志木中学校

志木市柏町 3-2-2

TEL 048-471-0143

## 教えることは 学ぶこと

～学校の“目指す教師の姿”とは～

教頭 島村直人

「行く1月、逃げる2月、去る3月」という言葉がありますが、言葉どおり1月があっという間に過ぎていきました。今年度も残りわずか、総仕上げの時期を迎えました。最後まで子どもとともに成長できる「子どもの心に生きる教師」を目指して頑張っております。

ところで「子どもの心に生きる教師」とは、いったいどんな教師なのでしょう？はっきりと言えることは、指導書等のマニュアルだけで一方的に教え込む教師でないことは確かです。内容が浅く、単に面白おかしいだけ、元気がいいだけの授業を展開する教師でもありません。また、いつも鬼瓦のような怖い顔をして叱りつけ、子どもを委縮させている教師でもありません。

心が温かく人間くささを感じる教師。子どもへの深い愛情を持っている教師。教育に対して強い情熱がある教師。子どもに学び、ともに伸びていこうとする教師など。

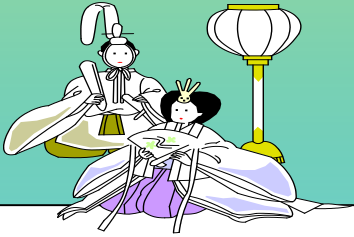
「心に生きる教師」の要素をあげたらきりがありません。しかし、あえて言うならば、「子どもを成長させることが大好きで、笑顔一杯で、心の通じ合う、頼れる、魅力ある先生」ということになるでしょう。

このような教師を目指すためには、自分の能力や人間性を常に磨き続けようとする努力や向上心が必要です。志木中学校では常日頃から、①子どもと一緒に談笑したり体を動かしたりする中で、子どもの気持ちをいつも敏感に感受できる力を身につけ、学級・部活内の課題や問題をいち早く発見し、解決するなど、子どもに軽視されない存在であるように心がけています。②広い心、温かな心、柔軟な態度で子どもに接し、「先生は頼りになるなあ」という感情を子どもたちが抱けるような存在であることを心がけています。③一人一人をよく理解し、公平に接し、指示を適切にし、集団全体に規律を構築して、学校に熱気と活気を与え、みんなの心を一つにできるように心がけています。④「自分は、まだまだ力不足」といった謙虚な気持ちを抱き、日々学び続けようとする求道者的な姿勢を忘れないように心がけております。

こういった「教えることは学ぶこと」という教師の謙虚で自分に対する厳しい姿勢が、子どもたちに伝わり、子どもたちは自ら学び、力強く成長しております。



# 志木中だより



3月号 平成30年3月1日

志木市立志木中学校

志木市柏町 3-2-2

TEL 048-471-0143

## 「春待つ心」をあたためて、新たな出発を！

校長 飯田 寛

平成29年度も残りひと月、一年間のまとめの時期となりました。また、3月は、卒業式をはじめ、学年の修了や教職員の異動など、悲喜こもごもの慌ただしい季節です。一日一日を意義あるものに、そして、足元をしっかりと固めながら、次なる新たな世界への展望をもちつつ過ごしたいと思います。保護者の皆様には、この一年を振り返り、学校に対する感想やご意見をいただければ幸いです。



立春が過ぎ、暦の上では春とはいえ、まだまだ寒気が厳しく、時たま訪れる春を思わせる日差しの中に「春待つ心」を遊ばせています。日本には古来から、この「春待つ心」を大事に温め、それを歌や行事に反映させてきました。「早春賦」しかり、また「冬来たりなば春遠からじ」という言葉には、厳しい寒さの中にも、わずかな希望を見出そうとする日本人の未来志向を感じ取ることができます。志木中の庭に咲く梅の花も大分ほころび、優雅な香りを漂わせています。寒さの中で開花するこの梅にも、古人は多くの思いを託し、和歌や俳句に、また歌謡曲に詠み込んできました。

春は「Spring」というように「バネ」を意味します。「啓蟄」という言葉にもあるとおり、冬の間眠っていた虫や動物、草木などが目を覚まし、大きく伸びをし、生命を吹き返す季節です。だとしたら人も同様、バネのように大きくジャンプし、新しい出発をする季節です。それは、取りも直さず、新しい自分を作り直すチャンスなのです。そのような飛躍や自分づくりをあれこれ思い描くのも「春待つ心」だとしたら、この季節は何と夢に満ちた、豊かな時間なのではないでしょうか。人は、気持ち次第でいくらでもやり直せるし、生まれ変われます。どうか、この「季節の力」を信じて、個々の「春待つ力」をあたためながら、新たな出発を期してほしいと心から願うこの頃です。



保護者や地域の皆さんには、この一年志木中のために様々なご尽力を頂き、感謝のことばもございません。学校がいかに多くの方々に支えられて機能しているか、管理職だからこそ身に染みて感じる日々です。今後も志木中が志木市や地域のよりよき拠点となるよう多様なご意見をいただきますよう心よりお願い申し上げます。